

哲学の道再発見



銀閣寺

天台宗の大寺院であったが、応仁の乱の為焼失し、相国寺の西に移転。泰誉上人が唯一残った草堂を浄土宗として再興。現在、浄土院として銀閣寺の横にある。義視が住職であったという事から、義政が浄土寺の跡地に東山殿を造営。近代以降も左京区浄土寺の地名のみが残る。

浄土寺跡



法然院の墓地には数々の著名人が眠っている。京大教授だった九鬼周造の墓石にゲーテの詩の一節「見はるかす山々の頂 梢には風も動かす鳥も鳴かずましてはし やかて汝も休らはん」とある。他に文豪谷崎潤一郎の墓碑「寂」等々



法然院

ヤブツバキ



安楽寺



霊鑑寺

春は日光椿や月光椿、秋は緑の杉苔と紅葉のコントラストが拝観者を迎えてくれる。境内は上下二段に分かれ、下段の客殿南庭の般若寺型燈籠の彫刻(火袋の鳳凰)は一見の価値がある。客殿内陳列物の透かし入り小屏風にも注目したい。

大豊神社



タマミズキ

ナギ



若王子神社

永観堂

冷泉天皇陵

シイ

疏水 ドラダンツツジ

アラカシ



これが噂の恋のかなう電話ボックス

ミツマタ



ソメイヨシノ (関雪桜は多数)

正式には「疏水分線」。京都市内の水の流れは、北から南へ流れるのに対して、唯一この疏水は南から北へと流れている。流れる水は、南禅寺・銀閣寺の周辺を流れ、下鴨を通り、最後は賀茂川へと注がれる。

光雲寺

仁和三年宇多天皇の御脳平癒祈願のために、贈正一位尚侍藤原椒子が勅命を奉じて少彦名命を奉祀された。末社大国社には、大国主命が野火に囲まれた折、ねずみによって難を逃れたことから狛ねずみが置かれている。

光雲寺については第一面をお読み下さい。

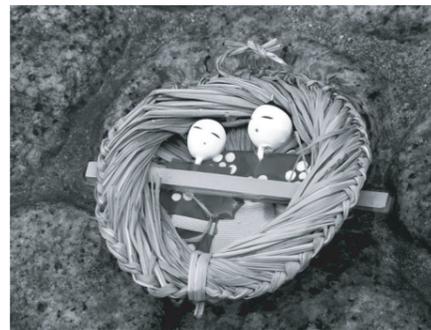
泉屋 博古館

白沙村莊 橋本関雪 記念館

白川

■都草抄 <ひなまつり> 上巳の節供・桃の節句

3月3日は平安の頃、祓いの風習として人形(ヒトガタ)を川に流していた。これに中国から伝わった五節会の習俗がいつしか融合し、平安朝の童の雛遊びに用いた人形が発展した。そこに飾り道具をしつらえ、現在の雛祭りに近い形になった。江戸の寛文・延宝年間(1661~81)には、一段と華美になり、大名の姫君の婚礼調度にも見られるようになった。東福門院が娘の幸せを祈って、「座り雛」を作ったとも言われている。時代が下がるにつれ、武士・町人にも普及していった。明治以降は、庶民の間にも広く「雛祭り」が行われ、女子にとって幼い日の大切な思い出となっている。いつまでも残したい伝統行事の一つである。



※都草抄は今後会員のコーナーとして、皆様からのご投稿をお待ちしております。

都草第5回研究発表会

日時:平成20年5月13日(火)
開始:午後2時~
テーマ:京都の祭り 2題
場所:ひと・まち交流館 京都(河原町五条下る)

「特定非営利活動法人京都観光文化を考える会・都草講演会と通常総会開催のお知らせ」

日時:平成20年5月18日(日)
場所:ひと・まち交流館 京都(河原町五条下る)
講演会 午後1時30分~
日本文化研究所 所長 森 博達先生 (演題:未定)
総会:午後3時20分 ~
※詳細は後日お知らせいたします。

次号の予告

祇園祭の発祥地である神泉苑。神泉苑の畔の斎場で「列見の辻」でもあった三条大宮の地に鎮座する御供社。山鉾町に点在する神社。次号では、神泉苑、御供社、山鉾町の神社を祇園祭と絡めて特集いたします。会員の皆様から前記の特集に関するご投稿をお待ち申し上げます。4月10日迄に亀田宛にメールまたはFAXにて送付して下さい。たくさんのご投稿お待ちしております。

亀田編集長メールアドレス&FAX
bunamk3@gaia.eonet.ne.jp
FAX:075-781-3897